

## 環境保全教育研究センター2021 年度活動状況報告

### 1. 設置の目的

環境保全教育研究センターは、環境にかかわる幅広い課題の解決にむけて恵那キャンパスおよび周辺地域での活動を行う他、国際的な生物多様性保全活動も実施する目的で2021年7月発足した。前者の活動については、中部大学-東濃五市連携協議会、中部大学応用生物学部、中部高等学術研究所および国際GISセンター、後者においては国際ESD・SDGセンターとの連携を保ちながら、いずれも理事長の指導の下で、SDGs教育を強力に進める中部大学の発展に貢献する。

当センターの担当する分野は、次の5ユニットとして組織されている。

ユニット1 野生生物 保全と共存

ユニット2 ゼロエミッション CN

ユニット3 里山文化伝承

ユニット4 食文化

ユニット5 農業・林業再生

## 2. 2021 年度活動報告

### 2-1.外部資金

#### ・ユニット 1

JICA 草の根技術協力事業 「ウガンダ共和国」「絶滅危惧種ヨウム保全の地域連携モデルケース構築支援」2020 年度採択済（予算総額 98,667,800 円）  
（牛田、土田、古澤 事務担当 国際地域連携課 岡島課長 筒井担当課長）  
2022 年 3 月 9 日付 中部大学-JICA 契約書締結

#### ・ユニット 5

JST 共創の場形成支援プログラム 地域共創分野（育成型）  
「Society5.0 シカケル・マモル・ソダテル 地域共創拠点」不採択  
→ 再提出を目指し検討中 （磯谷副学長 宮浦総長補佐ほか）

#### ・ユニット 1・5

岐阜県 2022 年度清流の国ぎふ地域活動促進事業  
「事業名 動植物レフュージアの利活用推進事業」応募中

#### ・ユニット 1

環境省 令和 4 年度生物多様性保全推進支援事業  
「ライチョウ野生復帰に必要な腸内細菌維持等技術開発」応募準備中

### 3. 事業進捗状況

- ・地域連携 五市連携協議会 各市担当部課長との打ち合わせ複数回実施  
→町づくり協議会として、打ち合わせ開始。

#### ユニット1 野生生物 レフュージア動植物園構想

- ・見本園用地に電柵設置、樹木伐採、ヒメカンアオイ、カザグルマ移植済み。説明看板設置終了で、現在一般公開可能な状態。
- ・観察用代表湿地の観察誘導路設置（清流の国ぎふ事業として申請中）および定期除草による湿地植物維持。
- ・湿地の微生物生態学研究の開始
- ・野生ニホンリス、野生ムササビ等の繁殖用巣箱設置準備中

#### ユニット2 ゼロエミッション CN

- ・小中高生へのゼロエミッション教育（サイエンスワールド 岐阜県先端科学技術体験センター）

#### ユニット3 里山伝統文化

- ・採取済みのアナログ資料の DVD 化推進済

#### ユニット 4 食文化

- ・恵那地方食文化研究開始 伝統食材・調理法（連携先 岐阜県健康福祉部 恵那市農政課）
- ・災害時避難所給食の改善について検討開始

#### ・ユニット 5 農業・林業

- ・2020 年度森の健康診断実施（12 月 3 日-5 日）